

奄美図書館だより

平成25年12月1日発行
第270号(12月号)
鹿児島県立奄美図書館

〒894-0016 奄美市名瀬古田町1-1 0997-52-0244

HP address : <http://www.library.pref.kagoshima.jp/amami/>

E-mail address : ama-lib@pref.kagoshima.lg.jp

第12回大島地区 「ふれあい読書フェスタ」

11月16日(土)、知名町中央公民館にて、「ドキドキ・わくわく・感動がし〜読書を通して、今、伝えたいこと」をテーマに、鹿児島県図書館協会奄美支部主催の第12回大島地区「ふれあい読書フェスタ」が開催され、家庭・学校・地域での読書普及のあり方について考える機会となりました。

開会行事では、大島地区優良読書会として、ユシキヤよみっこくらぶ(知名町)、なまこゆみんちゅ隊(与論町)が表彰されました。また、平成25年3月まで図書館長として御尽力いただいた、積山泰夫さん(前喜界町図書館長)、北之園千春さん(前鹿児島県立奄美図書館長)に図書館・公民館図書室功労者としての感謝状をお贈りしました。

知名町では、各学校、公民館図書室などにおいて、読書活動を通じた心の教育の推進に努めています。そこで、今年度、子どもの読書活動優秀実践校として、文部科学大臣表彰を受けられた知名町立田井小学校の瀧田和彦教頭に「親子で豊かな読書活動の推進」と題して事例を発表していただきました。また、学童クラブでいっしょ代表の清村美代子さんに、「子どもたちと一緒に地域の伝統文化を伝えていくために取り組んだこと」と題して、日常生活において、本を通して地域の言葉でふれ合うことの大切さについて紹介していただきました。

さらに、1997年に『水滴』で芥川賞を受賞された作家、目取真俊さんによる「本と私と沖縄」と題した講演では、島言葉にふれたり、先人の話を聞いたりして言葉を理解することが大切であり、そのことから地域独自の文学が生まれること、生きた物語を生む力になることなどにについてお話をいただきました。

今後、一人一人が読書によって人生を豊かにし、家庭・学校・地域・職場でさらに読書の風が吹いていくことを期待しています。



「クリスマスおはなし会」へどうぞ

奄美図書館では、12月15日(日)に「クリスマスおはなし会」を行います。大型絵本・パネルシアター・手遊び歌などを一緒に楽しみませんか。ご家族でお越しください。

○日時 平成25年12月15日(日)

第1部 10:30~ 第2部 14:30~

○場所 奄美図書館 4階研修室
サンタからのプレゼントもありますよ。お楽しみに!

奄美先人の知恵 え ば ら よ し も り 恵 原 義 盛

恵原義盛は、奄美の民俗研究家として知られていますが、戦前は法務事務官として全国各地で勤務し、その土地の生活習慣などに関心を持ちました。そして、奄美の刑務所長として勤務していた昭和30年頃、当時、鹿児島県立図書館奄美分館長であった島尾敏雄氏などとともに、郷土の歴史・文化を掘り起こそうと、「奄美郷土研究会」を組織しました。民俗研究の最初の発表は、1959年、昭和34年発行の『奄美郷土研究会報』創刊号になります。その後、退職して郷土の根拠部に帰ると、果樹園を営むなかたわら、奄美の民俗研究に本格的に取り組み、『奄美生活誌』を書く作業に取りかかりました。

恵原氏は、『奄美生活誌』のまえがきの中で、「古俗は年と共に一つ一つ消えていく、これを経験した人も年々減っていく。やがてこれを知る人は皆無になる……要するに総ての古俗は記録に残されたものだけが、後世にその存在を証すことになる。」と述べ、自分の体験と古老たちの記憶を、それが薄れぬうちに記録に残しておこうとしたものであるという執筆の動機を明らかにしています。奄美に古くから続いていたと思われる明治・大正時代の習俗が、戦後急激に消えていくのを見るにつけ心を痛め、危機感をもっていたのです。『奄美生活誌』を読むと、奄美での日常生活を、今見ているかのように思い浮かべることが出来ます。また、恵原氏の奄美の生活そのものを愛する気持ちが、どのページからもあふれ出ています。

奄美図書館で開催中の「恵原義盛没25年記念スケッチ画展」は、写真機、印画紙が高価であった時代に、恵原氏が自分の記録用として描いた一面をもつスケッチ画を展示しています。そして、写真では記録できない恵原氏の奄美に対する熱い思いを感じることができると思います。

年末年始のご利用に関するお知らせ

年末年始の開館時間等は、下記のとおりとなります。利用者の皆様にはご不便をおかけしますが、ご理解くださるようお願いいたします。

【開館時間・休館】

12月28日(土)	: 17時までの開館
12月29日(日)・30日(月)	: 臨時開館日(17時まで)
12月31日(火)~1月2日(木)	: 休館
1月3日(金)	: 臨時開館日(17時まで)
1月4日(土)	: 17時までの開館

【臨時開館日にご利用できないサービス】

臨時開館日には、下記のサービスはご利用いただけません。ご理解・ご協力をお願いいたします。

- 調査相談
- 書庫資料閲覧
- 貸出予約
- 利用者用端末
- 研修室

お知らせ

参加して
みませんか!



郷土コーナー

奄美群島日本復帰60周年記念記念ツボ・ジラ

○日 時 平成25年12月25日(水) 13:00~15:00
○場 所 鹿児島県立奄美図書館 4階研修室
○テマ 復帰の力を未来へ

奄美群島日本復帰60周年記念

復帰関係資料巡回展

○ 内容 奄美群島日本復帰関係資料の展示
(奄美市立奄美博物館、鹿児島県立奄美図書館所蔵)
企画パネル展等の展示
○ 会場 奄美市立奄美博物館
○ 日程 平成25年12月7日(土)~12月13日(金)

郷土コーナー企画展 開催中

○日時 ~平成26年1月30日(木)
○場所 鹿児島県立奄美図書館 2階郷土コーナー
○内容 恵原義盛没25年記念スケッチ画展

※ お問い合わせは、鹿児島県立奄美図書館まで。

12月の行事カレンダー



月	日	曜	行事・催し
12	1	日	特別整理に伴う休館（～12/5）
	7	土	おはなしさんぽ 10:30～ 奄美群島日本復帰60周年「復帰関係資料合同展」 （奄美市博物館 ～13日）
	8	日	ネリヤカナヤ創作童話コンクール表彰式
	9	月	休館 北朝鮮人権侵害問題啓発週間（～12/16） 期間中アニメ放映
	11	水	おはなしの森 15:30～
	12	木	青嶺短歌会 13:00～17:00
	13	金	育児サークル「こっちむいて」10:00～
	14	土	大島地区小学校国語教育研究会 13:00～
	15	日	クリスマスおはなし会
	16	月	休館
	18	水	おはなしの森 15:30～
	21	土	読書会「島にて」10:00～ ろんど文章教室 13:00～
	24	火	休館
	25	水	郷土コーナー講演会 13:00～
	28	土	17時までの開館
	29	日	臨時開館（17時までの開館）
	30	月	臨時開館（17時までの開館）
	31	火	休館（年末年始：～1/2）
1	3	金	臨時開館（17時までの開館）
	4	土	17時までの開館
	18	土	あまみならでは学舎

1月の休館日予告

1日(水)・2日(木)・6日(月)・14日(火)・

20日(月)・27日(月)・31日(金)

今月の新着図書コーナー

読書の風を
奄美から

児童

いちごさんがね…
とよた かずひこ 童心社
クリスマスのふしぎなはこ
長谷川 摂子 福音館書店
風立ちぬ
宮崎 駿 徳間書店
もしかしてぼくは
内田 麟太郎 鈴木出版
まるごと観察富士山
鎌田 浩毅 誠文堂新光社
いのちのギフト
日野原 重明 小学館
その他78冊

郷土関係

島尾敏雄 島影社
岩谷 征捷
米国軍政下の奄美・沖縄経済
三上 絢子 南方新社
その他26冊

おすすめの本

ちいさいおうち うみへいく
エリーシュ・ディロン 福音館書店
もし、住んでいるおうちが夜のうちに歩き出し、朝、目が覚めて窓の外を見たら、知らない土地に来ていた、なんてことが起こったらどうでしょう。びっくりするほど愉快なことだと思いませんか。でも、住んでいる家族が新しい土地になじめず、また元の場所に戻りたいと願っても、おうちがその場所を動いてくれなかったら、どんなに困ることでしょう。この絵本は、まるで人間のように意思をもつおうちと、そのおうちに住む家族の、ちょっぴりどきどきする冒険物語です。

一般

名言がいっぱい
出久根 達郎 清流出版
老いを考える100冊の本
久我 勝利 致知出版社
謎の蝶アサギマダラはなぜ海を渡るのか？
栗田 昌裕 PHPディテール・グループ
その他180冊

小説・随筆

鏡の花
道尾 秀介 集英社
動員時代
小川 国夫 岩波書店
もう一枝あれかし
あさの あつこ 文藝春秋
生きる事はおもしろい
五木 寛之 東京書籍
その他43冊

進学・ビジネス支援

社会起業家になるには
旗智 優子 ペリかん社
その他1冊

嫁の心得

中得 一美 泰文堂
著者の中得一美さんは、奄美大島出身の47歳で、現在、埼玉県にお住まいです。
この小説の主人公「いの」は、農家から武家に嫁いできた、六尺もある大女です。女としての幸せをつかみかけたのもつかの間、試験がおそいかかりますが、「いの」は果敢に立ち向かっていきます。「いの」の運命はどうなることでしょうか。
この作品は、放送局や出版社が映画化した作品を発掘する、第1回日本エンタメ小説大賞を受賞しました。